

人間発達科学 I

第8回

能力をどうとらえるか

(1) 能力を調べたい

— 知能テストの誕生 —

① 能力とはなにか

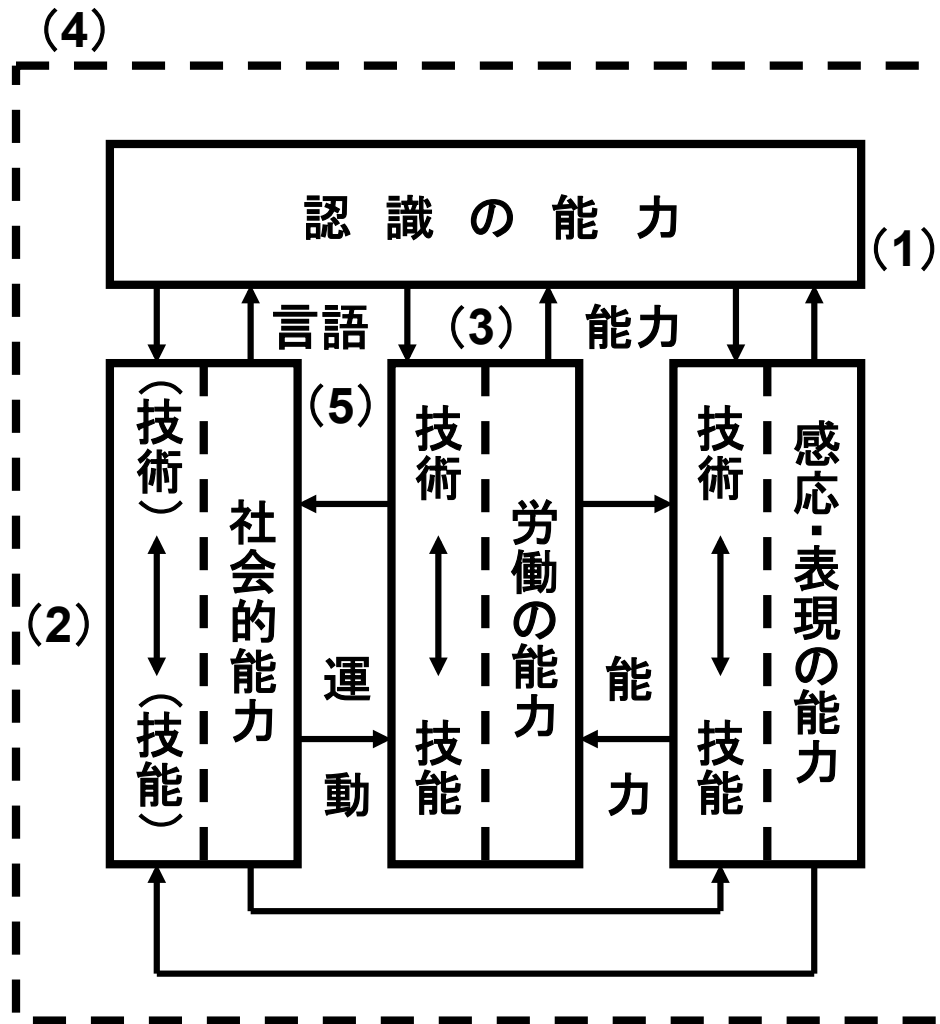
- 「物事をなしうる力。はたらき」(『広辞苑』)
- 能力の教育学的定義の一例

「人間がその心と身体で、特別ななにごとかを自分で思うように成し遂げることのできる力、そしてそのことで社会がその値打ちを認める結果がうみだされる、身に備わっている力」

(勝田守一『能力と発達と学習』国土社)

勝田の「能力モデル」

(勝田守一『能力と発達と学習』1990、国土社)



- (1) 認識の能力は他の三つに対して、特殊な位置に立つことを示したつもりである。
- (2) 社会的能力を技術・技能とするのは多分に比喩的である。それでカッコにいれた。
- (3) 矢印は相互に影響しあい浸透しあっていることを示す。
- (4) 点線の囲みは、全体が体制化していることを示す。
- (5) 言語能力・運動能力は、全体制を支える。

②測定意識の成立(中内、1988年)

- 前近代的な能力認識からの離脱
- Wundt(1832～1920)の実験
 - ・ハイデルベルク大学等で医学を学ぶ。
 - ・1860年ごろ時計による頭の良さの測定実験
 - ・頭の良さ＝知覚が鋭い＝即座に反応できる
 - ・1879年、ライプチヒ大学で世界初の心理学実験室を創設

- Itard の能力観

- ・能力は固定的・生得的なものではない
→人間の実践により変革可能

- Galton の能力観

- ・能力は遺伝する
 - ・優生的結婚の繰り返しで人類の改良可能
→優生学
 - ・能力は客観的な手続きにより測定可能
-

ゴールトン



<http://scienceworld.wolfram.com/biography/Galton.html>

③知能テストの発明とIQの登場

- Cattell, J. (1860～1944)の精神テスト
 - ・握力
 - ・右腕の敏捷性
 - ・感覚閾
 - ・痛覚閾
 - ・重さの弁別閾
 - ・音に対する反応時間
 - ・色の名前をいう時間
 - ・50センチの直線を二等分
 - ・10秒間の時間判断
 - ・一度で報告できる文字数

(村上、2007年)

- 知能テストの発明

- Binet, A. (1857～1911)による
- 「学業不振児」の特別学級を作るため

- 知能テストの基本原則

- 得点は生得的・永続的なものを示すのではない
 - 尺度は対象者をランクづけするものではない
 - 援助の必要性のある子は特別な訓練により改善が見込められる
 - 精神年齢の測定
-

ビネー



<http://vlp.mpiwg-berlin.mpg.de/people/data?id=per309>

- 知能テストの一例(1908年版)

- ・3歳児の問題

- ・自分の鼻・眼・口を指差す、絵の中の人と物の名前をいう、自分の苗字をいう・・・

- ・4歳児の問題

- ・自分の性別をいう、鍵・小刀・銅貨の名をいう、二本の直線を比較して長い方をいう・・・

- ・5歳児の問題

- ・二つの重さの比較、正方形の模写、10音節の文章を復唱、4個の貨幣を数える・・・
-

■ IQの考案

・ビネー: 知能水準 = 暦年齡 - 精神年齡

・シュテルン:
$$IQ = \frac{\text{精神年齡}}{\text{暦年齡}} \times 100$$

→ 能力を固定的なものをみることに

(2) 知能テストとレイシズム(グールド、1989年)

①「スタンフォード=ビネー式テスト」の開発

- 移民社会アメリカへの知能テストの導入
 - ・Goddardが翻訳・導入(1908年)
 - ・Kallikak家の研究
 - ・知的障害者の入国を懸念
- Terman(1877~1956)によるテストの「改良」
 - ・「教育の効率化」という目的
 - ・「知能は生得的」
 - ・「人種・職業によって傾向に違い」

②陸軍対象のテストの実施

■ Yerkes の取り組み

- ・陸軍兵士175万人を対象→データの集積
- ・テスト結果(平均精神年齢)
 - ・白人:13歳／ロシア系:11.34歳／イタリア系:11.01歳／アフリカ系アメリカ人:10.41歳

■ 実施方法の問題

- ・劣悪な条件下での実施
- ・文化的条件の違いの無視

③「出身国別割当移民法」への影響

- 1924年7月施行
- 「精神年齢13歳では、民主主義が生き残れない」
- Yerkes の陸軍データが議会で採用
- 1890年の移民数をもとに移民を割当に
 - この年以後、白人以外の移民が増加
 - 事実上、アジア系移民は不可能

④ ヘッドスタート計画とジャンセニズム

■ ヘッドスタート計画(1965年)

- ・アメリカ国内の人種・貧困問題への対応
- ・「文化剥奪」論

■ Jansen による批判(1969年)

■ 補償教育政策への反省

- ・「文化剥奪」論＝「文化欠落」論
- ・文化の差より将来像の欠落が原因では？
- ・補償教育はミドルクラスの文化の押し付け